

陳 述 書

平成 19 年 9 月 30 日

(練馬区立中村中学校時代の生徒(卒業生) - 荒井容子追記)

記

今回、私の人生の中で始めて意見陳述書というものを書かせていただきます。私には難しい文章など書けませんので、うまく伝えられるかわかりませんが、ただ今回のこの不当な処置に対し、大変憤りを感じ、拙い文章でも気持ちを伝えたく筆をとらせていただきました。

疋田先生との思い出はたくさんあります。合唱大会、文化祭、タイムカプセルを埋めたことなど、多すぎて何を書いたらよいのか？と頭を悩ませましたが、私個人が一番感謝している事を書かせていただきます。

私は中学 3 年生の時に疋田先生のクラスになりました。1.2 年生の時から疋田先生の授業を受けておりました。その授業内容はとてもユニークで、後にも先にも疋田先生のような楽しい授業はなかったと思います。私は、勉強は苦手で、特に理数系は大嫌いでしたが、今でもはっきりと覚えているくらいです。

疋田先生の授業を受けたことのある方なら、その内容はわかると思いますが、もし簡単に伝えるならば、最近よくテレビなどにも出演されている でんじろう先生の授業のような、頭で考えるだけでなく、身近にあるものを使ってわかりやすく教えてくれるものでした。従って、理科準備室には当時からたくさん授業で使ういろいろなものがあつたことも記憶しています。

そして、担任としての先生は、勉強に身の入らない私にご自身の教科外の勉強までみてくださる、とても熱心な先生でした。

当時、数学が苦手だった私に 1 冊の数学の参考書を私に紹介してくれました。『数学が苦手な君へ』というタイトルからも、とても親しみやすいものでした。それまで、勉強しなくてはという焦りから参考書を買ってはいましたが、買ってみてもその内容がさらにわからないので、本棚に飾るばかり。

しかし、その 1 冊の参考書から少しずつ勉強のやり方というものがわかっていったのです。

その後、疋田先生は勉強の進み具合を見るために、私と交換日記のようなものまでしてくださいました。担任教師として、当然のことと思う方もいらっしゃるかもしれませんが、たくさんの生徒がいる中で、たった一人の生徒の為に、こんなに親身になってくれた先生は、私の学生時代の中で疋田先生以外にはいません。

疋田先生は、
決して生徒を見捨てることをしないのです。
全ての生徒にいつも全力でいてくれるのです。

常に生徒のことを一番に考えてくれる、生徒にとって理想の先生を、このような不当と思える処分にしてもよいのでしょうか？疋田先生のような方が、教師でなくなっ
てよいのでしょうか？

どうか、私達の大切な疋田先生をこのような不当な処分で辞めさせないでください。
これからの日本の教育の為にもよろしくお願いします。

以上